

2 みんなで記録を深めよう

記録を有効に活用し、園全体で共有を図ることで、個々の記録が園全体の共通理解の源になります。記録された多様な場面から、「科学する心」に迫る手がかりを見出すことが期待できます。個々の記録を定期的にもみんなで分析・考察することで、子どもの姿から「科学する心」を受け止める保育者の感性が磨かれています。

みんなで記録を分析・考察

社会福祉法人慈育会 若葉台保育園（福島県）

全保育者の主題に対する共通理解が深まるように、記録用紙に観点を示す工夫をすることで、子どもの姿を読み取るだけでなく、保育の振り返りや評価ができる。また、方向性が見えてきた。

＜平成24年度 観察記録用紙＞

年月日: 24年 8月 1日 () ~ 8月 4日	記録者名: わかば だい	4.5 歳児
発見 驚き 感動 (探究心) 好奇心 疑問 (意欲) 科学 創造 想像 喜び 思いやり 感謝 アイディア その他		
子どもの言葉・表情・しぐさ・動き		保育者の指導・支援
<キノコの件の様子> キノコのことを覚えていて、ゴーヤを見ながら、キノコを気にする姿がある。プランタの下の方をしゃべりながら見ている。黄色の花を見つけたものの、「キノコはない」と子どもたち。「何だったのだろうか?」と思いが、かわからない。図書館にも行ってみたが、わからないため、興味はうすれていった。やがて忘れてしまいうつらに、アサガオの水やりの際に、アサガオのプランタにもキノコがあるのでは? と、のびく 桃花ちゃんに姿をみせた。		
保育者の指導・支援 子どもは同じようにプランターをのぞいて、発見をきっかけに、やはり見つからない。図鑑にもない。ネットもみらると、子どもたちも「図書館にも行ってみたが、同じキノコがない。(どうすれば見つかるのか?)」と、子どもたちも「正体を知りたい。子どもの知りたかった。どう向き合いたいのか?」		
考 察 ・子どもたちの知りたかった。どう向き合いたいのか? 同じように調べたり、考えたりする期間だった。副園長先生に聞いてもらうこともあった。この返答に、保育者一人ひとりの姿を丁寧には深める。写真と手紙により調べたものの、行きつまり、保育者の中には、気温・湿度などが関係しているのでは... と考える声もある。(ミーティングで)		



メモをする
写真を撮る

ゴーヤの栽培・観察を重ねたことで、思いがけないキノコの発見。子どもも保育者も疑問にあふれた瞬間。朝の発見から夕方まで、「なんで?」と調べたり考えたりするための時間の経過も楽しく、それも大切と感じる。

メモを記録に起こす。観点を意識できるように、記録用紙を工夫することで、記述の内容が分かりやすくなる。

職員間の打ち合わせの場で記録を話し合う。記録者の感じ取ったことや考察を大事にし、その場にいた子どもや保育者一人ひとりの姿を丁寧に把握する。

子どもの言葉やつぶやき、会話、しぐさ、行為、やりとり、視線や表情など、「どのようなことから、考察したことが言えるのか?」掘り下げて話し合い、記録の内容を鮮明にして共通の事例にする。

7月31日(火) 《キノコ、発見!》

ゴーヤの蔓は伸び、園舎の屋根にも届きそうになった。「ゴーヤの手、どんどん伸びてきた」と、伸びた蔓に驚きながら、知らせる4歳児。数多く実を付け、実もさらに大きくなっている。子どもの多くが、付けた実や蔓の行方にひきつけられていた。そんな時、C児がゴーヤのプランターで思わぬものを発見した。C児:「先生、ゴーヤにキノコ生えてるよ!」保育者:「エッ!どこどこ?」

C児は、プランターまで保育者の手を引き、「これこれ!見て」と、翌日の登園直後、次々と友達や保育者に知らせたため、あっという間にキノコの話は広がった。目にした子どもも保育者も「エ〜?なんで?」と、不思議でいっぱいになった。不思議な思いを抱え、一日を過ごす。子どもたちは図鑑を広げ、キノコの正体を探ろうとする…。

そして夕方、保護者のお迎えを待ちながら、園庭で遊び、朝から気になっているキノコを、見に行く。一緒にのぞくと…「キノコがない!」「なんで?」子どもたちも、保育者も同じ謎に包まれた。

翌朝も、最大の関心事は、ゴーヤより消えたキノコ。子どもたちは「ネコじゃない?ネコが食べたんだ」「ネコって、きのご食べんの?」「誰かが、採った」「おばけきのこ?!」と、思いをめぐらす。

保育者が感じ取ったり疑問に思ったりしたことを手掛かりにした話し合いを通して、子どもの心の動きや思考、行動、またそのきっかけなど、状況が具体的に見えてくる。この過程により、子ども自らが体験していることを大事にする見方や考え方になり、保育者間の共通理解が深まる。